



# ハタラクヒト \*ペディア5

---

<加藤大志朗 氏>

---

田中永子

---

## はじめに

---

はじめまして、田中コーチングの田中永子と申します。

私はNLPやコーチング、ソースなどを学び、それらのノウハウや考え方を活かしたコーチングを提供しております。

この度、新しい企画といたしまして、おもに愛知県名古屋市、刈谷市を中心にお仕事をしていらっしゃる経営者の方々や企業や組織の幹部の方々へのインタビュー企画をスタートいたしました。

この企画を始めようと思った趣旨は、将来の先行きが見えづらい現代社会において、第一線でバリバリと働いていらっしゃる現役の経営者の方々、企業幹部の方々が、今何を考えているかということに興味を持ったこと。そして、その考え方に基づいてどんなアクションを起こしていらっしゃるのだろうと思ったことにあります。

また、こうした第一線でご活躍の方々のさまざまな角度からのメッセージを他の多くの実業家の方々と共有したいと思ったことも大きなモチベーションとなっています。

その他、高校生や大学生の方、これから社会に入っていこうとする方にも読みやすいように心配りしておりますので、ぜひご愛読をいただけましたら幸いです。

個人的な考えではありますが、愛知県はモノづくりの聖地であると考えております。このモノづくりの聖地である愛知県にあって、日夜、しのぎを削っていらっしゃる多くの企業人、組織人の生の声をお届けしたいと思っております。

よって、このサイトの大きな特徴として、インタビュー形式のログをそのまま読者のみなさまにお届けするというスタイルを取っています。インタビューさせていただく私と、インタビューを受けてくださる方の真剣勝負。行間の中に潜む間も大切なメッセージだと考えております。

## 冷静と情熱の間 …… 先を見据える社長 加藤 大志郎 氏

---

ご登場いただくのは 加藤 大志郎（かとう だいじろう）さんです。

加藤さんは、刈谷市商工会議所に在籍  
株式会社 白半建設株式会社 代表取締役社長  
（社）刈谷青年会議所OB  
刈谷ロータリークラブ会員  
刈谷商工会議所青年部会員

今日はお仕事についてはもちろん、  
ご趣味などについてもお話を伺ってみました。

加藤 大志郎 さん



白半建設株式会社（はくはんけんせつかぶしきかいしゃ）  
民間企業・医療法人の建物の新築・増改築を主とした建設サービスを提供しております。  
信用を大切に、地域に密着して高い顧客満足を提供することをモットーとしています。

趣味 : 読書・ヨガ・寺巡り

電話番号 : 0566-21-5121

HP : <http://www.hakuhan.com/>

メール : [info@hakuhan.com](mailto:info@hakuhan.com)

◆先を見据えて感じる「危機感」

田中永子（以下、田中）： 加藤さんはフェースブックをされてないとか？

加藤大志朗さん（以下敬称略、加藤）： はい。やってないですね。フェースブックとか、常にそれを見てないと、落ち着かなくなっちゃうとか。

田中： 依存症みたいな感じとか。

加藤： セキュリティの面で怖いな～と思っています。

田中： 私の友人も、結局、連絡取る時は電話やメールだったりするから「fbはやらない」って。

加藤： ですよ。フランスのジャック・アタリさんの著作の中で、「これからは携帯端末で様々なことができるようになり、また携帯端末で個人を管理する世の中になる」という未来予測があり、まさにそんな世の中になっている気がします。だからスマホもどうかと思っています。ぼくはそんな要人とかじゃないんですけど。

田中： でも、それくらい気をつけられて、ちょうどいいくらいかなって気がします。

加藤： そうですね、気をつけるっていうか、なんかね、信用してないっていうか。

田中： 携帯とかデジカメで撮った写真をアップすると、それから住所がわかってしまうこととかあるみたいですね、GPS機能がついているから。

加藤： あー、はいはい。

田中： だからGPS機能をオフにしてから撮らないと、自宅でとった写真をアップロードした場合、住所が特定されてしまうことがあるから、注意してねっていうのを聞いたことがあります。

加藤： 例えば、太陽光発電、スマートグリッド、シェールガスが新しい時代を作ると言われていますが、本当にそうなのだろうか！？ と思っています。

田中： たしかに一面だけが正しいってことは絶対ないって私も思ってて。 それをすることでなにがしか得をする、メリットがあるという場合は、それを意図的に仕掛けるってこともあるん

だろうなって。

加藤： そうですね。

田中： そういう方向にアンテナが立つ感じですか？

加藤： っていうかね、一番の根本は2005年に社長になったということです。

田中： ええ。

加藤： それで、会社に行くのに、家があって真向いが会社なんですけど、車の通りがすごく激しくて、結構命がけだったりするの、実は。

田中： 渡るのに？

加藤： そう。 でも実際、僕が会社に行くこと自体も命がけみたいな（笑）。

田中： うふふふ。

加藤： 身近にいる 「仕事ができる人」 に比べると、僕は標準的な能力の人間だと思っています。 なので、僕のような人間は、まず仕事をきちんとやり、決して会社をつぶすようなことだけはあってはいけないという思いが強いです。 父から引き継いだ中で社内改革を進めてきましたが、その過程で 「会社というのは、信用だとか財務だとか、何か一つが欠けると簡単につぶれてしまうんだな～」 ということを感じました。

田中： ええ。

加藤： とにかく、その時以降、「うちの会社がどうやったら、伸びて行けるかな」 って思いが強くて。 いろんな本読んで、自分なりに多少ですが、何か見えてきたような気がした時期がありました。

そこで思ったのは、たとえ中小企業であっても、今どのような世の中で、またこれからどういう世の中になっていくのかということを知らなければならないな～ということです。 これは、自分の会社が世の中に役立つために、どの立ち位置でいるべきかということを理解するためにも必要だと思いますし、これからどんな世の中になるかがおぼろげながらも分かっていたら、何か手を打つことができると思うからです。

特に 「これから悪くなる」 というところこそ、そうだと思います。 悪いことは、分かってか

らではあまり手の打ちようがないと思います。でも、「簡単につぶれてしまう会社というもの」を継続していくためにはこれが非常に重要だと思っています。これがたぶん、僕の中で一番日常を占めていることですね。

田中： さっき、大変なところに行きあたった時に何かが見えるような気がしたって、おっしゃってたんですけど、それまで見えなかったことの、何が見えたんですか？

加藤： それはですね、大きく今、「日本とか、自分たちの立ち位置っていうが、どこにある？」っていうことだと思っています。

田中： ええ。

加藤： このころから、僕ね、読書ノートを書いています。これ何冊かになりますが、本の事だけでなく気になった記事の切り抜きなんかもスクラップしています。（ノートをみせていただく）

田中： どういった本を読まれるんですか？

加藤： 例えば、「二宮金次郎（尊徳）」に関する本は興味深かったです。二宮金次郎は、名前は皆に知られていますが、実際に素晴らしい方だったようで、その言動が、ぼくの基本になっていたりします。例えば、金次郎の言葉に「譲って損なし。譲れば譲るほど良く、それは自分に返ってくる」というものがあるのですが、市に寄付する際、これを思い出し、率先して寄付することが出来ました。

田中： 私もそれは聞いたことがあります。

加藤： また、「内橋克人（うちはしかつと）」という方がいます。経済評論家で、あの人の本を読んで、金融や企業のあり方などを学びました。

．．．．． つづく ^^

◆そして「修行」

田中： 加藤さんの場合、いわゆる経営、会社を盛り立てていこうとしてるだけの人が見ている経済的視点と、ちょっと違う気がしますね。すごく根底的なところを構築していらっしゃるというか、どんどん地固めをされているような。

加藤： うん、一種、働いてることも、毎日起きていることも、ある意味修行。楽しみながら修行してる。僕にとっては、修行してるイメージなんですけど。

田中： うーん。

加藤： 分からないことがあると、こう関連付けて何か本読んでみたいなとかですね。

田中： そうなんです。 さっき修行っておっしゃってたけど、修行ってなんですかね？

加藤： 例えばですが、5月～6月にかけて、なかなか休みが取れなかったのですが、実はあんまりいやでもなかったんです。「仕事をやり切りたいなー」という気持ちの方が強かったんだと思います。 うん。

毎日やらなきゃいけないことをやってく中で、たぶんこれからが見えてくるし、これで自分もちょっとは成長するのかなって。

田中： ええ。

加藤： その先に何かがあるんだろうなという漠然とした思いがあって、やってるところがあるんですけど。

田中： 笑

加藤： まあ、自分の日常をアップして、どうこうはならないけど……。全てのキーワードは、きっと、戦争になっても、日本国がおかしくなっても、とにかく生き抜くってこと。それが僕の中で結構な割合を占めていて……。

田中： いろいろなことを考え、行動される中で、それを実地で確認されてるような感じがします。

加藤： うーん、そう（笑）。そうですね。

田中： 「これって、こうなのかな？」 みたいな。 割に日常って、そういったことがあっても流しちゃうことって、多いじゃないですか。

加藤： うん。

田中： それを加藤さんは、丁寧に、一度立ち止まって見てみる、みたいな。 そんなところがあるような感じがしました。 なんか着実に積み上げてる感じがします。 だから、さっき修行っておっしゃってたけど、修行だから 「ただ、ただ、やる」 みたいな。

加藤： そうですね。

田中： なんかそんな感じなのかもしれないって。

加藤： 修行と言えば、息子にも言ってますね。 「経営者っていうのは、いいよ」 って。 何がいいかっていうと、儲かるとか儲からんじゃなくて、すごく勉強になるっていうか、自分が鍛えられるっていうか。

田中： 息子さんはおいくつですか？

加藤： まだ中2です。

田中： やわらかいときですよ。 そういうお話をされた時、どうなんですか？ 息子さんの反応は？

加藤： うーん、小さい頃からね、洗脳してたわけじゃないですけど、自分がいろいろしゃべるじゃないですか。 そうすると、結構。

田中： 笑

加藤： 正直、洗脳されてるかなって思う部分もありますけどね。

田中 笑

加藤： 今、田中さんにしてるような話をごくたまに、チョロっと話すこともあってね。

田中： うん。



加藤： ある時、思うことがあって……息子にね、金を買うことを勧めたんですよ。

田中： うん。

加藤： 子どもだから、そんな大きいもの買わないですけど。何かにつけて隣に住むお婆ちゃんところに行って、お手伝いしてお小遣い貰ったりして、それがだんだん貯まってくるじゃないですか。

田中： ええ。

加藤： 5万位になって、一緒に金を買いに去了きました。これはぼくが洗脳した部分ではあるんですけど。

田中： 笑

加藤： こんな風に言ったんです。「これから日本っていうのは、たぶんかなり厳しくなる。その時に自分を守るためにね、持ってた方がいいと思うよ」息子は言いました「じゃあ、買いに行くよ」って。

田中： おもしろいですね。息子さんにも、生きる術、生き抜く術を伝授してる感じが。

加藤： してるんですかねえ？

田中： はい。

加藤： 子ども二人を、毎朝刈谷駅まで送って行ってるんですけど。AMラジオをつけてみたら、6時43分から「ビジネス展望」というコーナーで、いろいろな人が日替わりで話すんですよ。

田中： ええ。

加藤： 興味があって毎朝聞いているんですけど、それを子どもたちも一緒に聴いてますしね。「これは何かの洗脳になるかな？」って思いながら、ラジオをつけてますけど（笑）。

田中： あはは。

加藤： ラジオを聴いて、「結構いいこといってると思うな～」などと、多少感想を言うわけです。

田中： さっきの修行と同じで、淡々とされてる感じがします。

加藤： あ、そうですか。 淡々としてますかね？

..... つづく ^^

◆生き抜くための変化

田中： うん。 「こういうふうにしなさい」 ではなく、一種、事実だけを提示する、みたいな。

加藤： うん。

田中： ええ…… 対応するための変化を怖れないって感じがしました。

加藤： ええ。

田中： 生き抜くためであつたりとか、いい結果を出すために、自分を変化させるのを怖れていないっていうか。

加藤： そうですかねえ。 JCと一緒にやってた人達には、頑固だっていわれてましたけどね（笑）。 そう思ってもらえるのであれば、いいですね。

田中： お話を伺っていて、「修行じゃないかな」 っていう受け入れ方とか。 こう生き抜くってことが最優先だから。

加藤： うん、なんかそうなっちゃってるんですね。

田中： うん。 それ以外はなりふり構わずにいられる。 「そのための手段はすべてやっている」 みたいな。

加藤： そんな感じですね。 うん。 そんな感じですよ。

田中： おもしろい。 私も最近、気功を勉強し始めて、八事の 「興正寺」。

加藤： 興正寺ですか。 お婆ちゃんの家近くですわ。 子どもの頃よく遊びに行きました。

田中： そうなんですか。 そこで瞑想法で、「阿字観」。

加藤： あー、はいはい。 ぼくも高野山行きて。 やりましたね。

田中： へー。 その前の 「阿息観」 を興正寺で体験できるので、行ってきました。

加藤： で、どうでした？

田中： おもしろかったですー。 ああいった世界って、おもしろいなって。

加藤： ヨガの最後に、シャバアーサナという瞑想の時間があるんです。 何にも考えずに脱力して呼吸をするだけなんですけど、すごくすっきりした気分になるんですよ。

田中： ヨガはどれくらい続けていらっしゃるんですか？

加藤： JCを卒業してからですから、5年くらいですかねえ。そう、話を少し変えてしまいますが、福岡正信さんの「わら一本の革命」という本があります。この本を読むと、結局、科学技術っていうのは西洋の発想のものであり、出来ればない方がいいくらいのものだと書いてあるんですよ。例えば、物質の最小の単位を調べていく過程の中で、つぎつぎと更に小さな単位の粒子が発見されていますが、そういうことも自然の真理からみれば、分かりきっていることなんだそうです。それを「あーでもない、こーでもない」ってやってるのが、科学技術だと言っていましたね。

田中： うん。

加藤： また、人間っていうのは、どこまで行っても自然とつながっているのだそうです。アメリカやヨーロッパは、地面の力が無くなってしまっていて、このような状況では人も文明も荒廃していくのだと言っていました。福岡さんは本当に仙人みたいな顔してるんですよ。娘にみせたら「はあ？」って言っていましたけど（笑）。

田中： あはは。私も日本って国ってすごいと思います。ひろがり、キャパの大きさっていうか。

加藤： え、どんなところで？

田中： 日本語もそうなんですけど、曖昧なところが多いじゃないですか。西洋は白か黒か、善か悪か、敵か味方か。そういった部分が強い感じがするんですけど、日本はグレーゾーンが多い。

加藤： うーん。

田中： 「まあ、まあ」みたいな。それって優柔不断な部分でもあるんですけど、それだけの含みも多い部分でもあるのかなと。

加藤： そうですね。

田中： だから西洋の文化が入ってきたときも、受け入れる度合いがひろくて、受け入れたものを独自のものに変換していく柔軟性とか。 白黒思考では対応できない部分に対応しているような民族のような気がします。

加藤： うん、そういうことですか。

田中： でも、最近は変わってきてる気がしますけど。 「単純なものが受け入れられる、分かりやすいものしか理解できない、分からないものは受け入れない」 みたいな。「自分で考えない。」 なんか、そういう危機感みたいなものはありますね。

加藤： そうですね。

田中： 最初から思考停止している人も多い気がしています。

加藤： どうしたらいいんですかねえ。

田中： 気づくしかないのかなあって。

加藤： 同一性を好むようなところもありますもんね。 雰囲気でいっちゃう、みたいな。

田中： それがマイナスに働く場合もありますけど、視点を変えれば違う面も見えてくる。

加藤： そうでしょうね。

田中： 私の友人も、変な言い方かも知れないですけど、「目をつむってる人が多いよね」って。 だから 「これはおいしいんだよ」 って言われたら、身体に悪いものが入ってるかもしれないのに、疑いもせずそのまま食べちゃう人が多い。 さっき加藤さんが視点のお話をされてましたけど、「どうしてそれを勧めるんだろう？」 って視点が、自分を守ってくれるって。

加藤： ミーハーな部分も人間必要かなって思う部分もありますけどね。

田中： ですね。 自然で考えたりすると、地産地消。 その土地にあったものがあって、季節のものを頂くことが身体にいいとか。

加藤： それ、「わら一本」 の人も言ってましたね。 季節のものを食べることは身体に陰と陽を取り入れることだって。

田中： すべて起こってる現象は意味があるんじゃないかって思います。

加藤： 冷蔵庫は素晴らしい発明だけど、あれによって季節を外れたものが食べられるようになってしまった。 文明の発達によって、人間が本当の意味でしあわせになったのか？ というと、決してそうではないって言っていましたね。 本当の人間の目的ってものを見ていかないといけない。

田中： 加藤さんにとっての、しあわせってなんですか？

加藤： あんまりそういうこと考えてないですけど.....正直に言って。 すごく好きだなあっていうのは、去年日経で連載されていた「長谷川 等伯（はせがわとうはく）」の新聞小説。 等伯は、何年か前に京都の国立美術館で特別展をやっていて見て来ました。

絵を見るのは好きです。 絵を見ていると、時に、「これ、なんかすごいよね」 っていうのを感じることもあるんですよ。 それが僕にとって、長谷川等伯さんだった。「魂を揺さぶられるっていうのは、こういうこと!？」 っていう感じでした。 そういう時がしあわせなのかなって。

田中： ええ。

..... つづく ^^

こちら、好奇心でかきだした質問表です^^

加藤さんにもインタビュー後おつきあいいただきました。  
まずはどうぞ、みなさんもたのしんでくださいませ★★

### <いろいろ質問表>

- ・月並みですが、小さい頃はどんなこどもでしたか
- ・好きな本を一冊選んでください
- ・いつも必ずする「習慣」はありますか
- ・ねこ派ですか？いぬ派ですか
- ・今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか
- ・それのどの部分が大変だと感じたのでしょうか
- ・それをどうやって乗り越えたんですか
- ・その時、大切にしていたことは何ですか
- ・今頭の中にうかんでいる人はだれですか
- ・その人は、何か言っていますか
- ・3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか
- ・人と会う時、つきあう時、その人のどんなところをみていますか
- ・人として、これは譲れないっしょ??っていうのがあったら、何ですか
- ・RPGでパーティを組むとしたら、どんなキャラクターを選びますか
- ・因みにそのなかで、あなたの役割（キャラ）はなんですか
- ・それはどんな冒険になるのでしょうか
- ・「攻め」と「守り」自分はどちらだと思えますか
- ・全く何の制約もないとしたら、何をしますか
- ・聞くとムカッってくる言葉ってありますか
- ・どんな時にイラッとしますか
- ・落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか
- ・何をしている時が一番たのしいと感じますか
- ・今一番欲しいものは何ですか
- ・あなたの萌えポイントをおしえて下さい
- ・今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい
- ・そこで何に気付きましたか
- ・今の自分を突き動かしているものは、何だと思えますか
- ・今死んでも悔いはありませんか
- ・身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか

- ・世界に向けて演説をするとしたら、何を一番伝えたいですか
- ・生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか
- ・人間以外のものに生まれ変われるとしたら、なにがいいですか
- ・朝起きたら、雨が降っていました、どんなことを思いますか
- ・世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか
- ・自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、おしえてください
- ・自分のキャラを一言でいうなら
- ・今一番大切に思っている事（もの）って、なんですか
- ・今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったらおしえてください
- ・一年後、どんな自分にいるでしょうか
- ・最後に何か一言お願いします ^^

..... つづきは加藤さんの

おこたえデス ^^



田中： あの、もうちょっと伺ってもいいですか？  
月並みですが、小さい頃はどんなお子さんでしたか。

加藤： 僕？

田中： はい、僕（笑）。

加藤： まあ、ちょっと変わった子だったみたいですけどね。

田中： まあ、どんなふうに？（笑）

加藤： うーん。

田中： 言われたこと、あるんですか？

加藤： そうですね。 人と違うことをしようとするところがあったんでしょうか。 従兄弟には、「昔はもっと変わってた」 って言われます。

田中： へえ。

加藤： ちょっとまともになったねって。

田中： やり方を違うやり方ですとか、目の付け所が違うとか、そういうこと？

加藤： うーん。 従兄弟に聞いときます！！（笑）

田中： 好きな本を一冊選んでください。

加藤： 今だったら、「等伯」 でしょうか。

田中： いつも必ずする 「習慣」 はありますか。

加藤： 神棚に毎日お参りしてますね。

田中： 今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか。

加藤： そうですね、やっぱり会社を改革したときですね。

田中： どうやって乗り越えられましたか？

加藤： うん。 自分たちの力もあるけど、それプラス、よく言われる 「目に見えない力」 じゃないですけど、3分の1～半分はそういうものがあって、乗り越えてこられたんじゃないでしょうか。 そんな気がしますね。

田中： 腹を括られて、淡々とやりつつ、そこにそれが働いた、みたいな。

加藤： うーん。 「だめだったら切腹します！」 ってくらいの気持ちでやってましたからね（笑）。

田中： 笑

加藤： 高橋是清は、「討たれても本望」 みたいなことを著書に書いてます。 この思いには共感します。ただ、一難去ったと思ったら、また次の課題が来ますんで、まだまだこれからです。

田中： 3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか。

加藤： あんまり願いはないんですけどね。 「叶っちゃっても困るのかな」 みたいな。今のぼくの心境はね。

田中： 叶っちゃっても、困っちゃう（笑）？

加藤： うん。 叶っちゃっても、いけないんじゃないかなって（笑）。 与えられた条件の中で、壁を乗り越えていき、その成果として自分が成長していく、そのプロセスが大事なんじゃないかと思いますので。

田中： ああ、修行の成果として。

加藤： うん、成果としてね。 また、どんな結果になっても、「すべていい方に向かっている」と思って行動しています。

田中： おもしろい（笑）

では、人と会う時、つきあう時、その人のどんなところを見えていますか。

加藤： 僕は何も考えてないですね。 でも、どうなんだろうなあ。 単純なところでは、信念、信用。 責任持ってやってくれる人なのかとか、かな。

..... つづく ^^

田中： 人として、これは譲れないっしょ?? っていうのがあるとしたら、何ですか。

加藤： これは人間として、これは? ってこと?

田中： そうですね.....今、浮かんでいるもので?

加藤： 今浮かんでるものは、人の為に役に立つこと。 ちょっと息子とも話してたんですけど、NHKスペシャルでポルシェに乗った金融で儲けた人が出とるわけですね。 僕は息子にこう言ったんですけど、「この人たちは頭がいいかもしれんけど、生きる目的を間違っると」と。

要するに、「何をしても儲ければいいんだっていうのは違うよ」と。 能力の使い方を間違っると.....そんなようなことを言いました。 そういう目的というか、考え方は譲れないことかな。 はずしちゃいけないと思いますね。

田中： では、その生きる目的とは.....何でしょう?

加藤： 今言っていたのは、「生きること=仕事をする事」の目的は、「人の役にたつこと」ということであり、「儲けること自体が目的になってはいけない」という意味です。ただ、あらためて、「生きる意味ってなんですか」と正面から聞かれると、いったいなんでしょうね。 うーん.....。「生きる目的とは、考える必要が無いことである」、そんなことを本で読んだことを思い出します。

田中： ああ。

加藤： 確か「わら一本の革命」の著者の福岡正信さんが、そう言った気がします。「動物っていうのは何も考えていない。でもそれが一番素晴らしいことなんだ。だから何も考えず、目の前の与えられた自分の課題を一生懸命にやってくことが大事だ」と。

そんな内容だったと思います。 きっと「生きてること自体がすごいんだ」とってことなんでしょうね。 僕自身も今そんな感じです。「生きる目的ってなんですか?」って尋ねられても、困りますよね(笑)。でも、大体こんなところが、今の僕の中の答えですね。

田中： 意味を探すものではなくて、それがそのままであるって感じですね。

加藤： うん。 そんな「人間の知恵ぐらいで分かるものじゃない」とって言ってましたね(笑)。

田中： うふふ。

加藤： 深海に潜ったことのない動物に、深海についてしゃべれと言っても分からないようなもので、そのことを知る能力がないものに答えることは出来ない。 だから人間が生きる目的は何かを考える必要はなく、ただ与えられた条件の中で毎日毎日を一生懸命生き切ることが大事である ……そういうことなんだろうなって、僕は思いましたね。

田中： 「攻め」と「守り」自分はどちらだと思えますか。

加藤： 私は会社をつぶさないことを考えてますから、これから非常に厳しい時代になっていくと思っている私としては、今の時期では守りが大事だと思います。

田中： 今？

加藤： この時代はね。 父と同じ時代に生まれていたら、攻めるべきでしょうけど。

田中： 全く何の制約もないとしたら、何をしますか  
……加藤さん、なんだかそのまんま、いる感じですね（笑）。

加藤： そうですねえ、制約がないのも困りますけどねえ。

田中： 制約はあったほうがいい？

加藤： そうですね。 制約がなかったら、宇宙行ってみたいとはありますけどね。

田中： きっと今制約がある中でのあり方、そのまんまっていうのを考えた時に、この問題はないって感じですよ、きっとね。 制約のあるなしは関係ないって。

加藤： うーんうん。 そう言えばあれはありますよ。 バケルくんになって、日銀の総裁に数日だけでもなってみたいなって思ったことはありますよ。

田中： おー（笑）。

加藤： 東大出てないから、だめですけど。

田中： え？ そうなんですか？

加藤： 昔は違ったけど、今はそうじゃないですかね。

田中： 総裁になったら、何をしたいですか？

加藤： いや、日本国を守るっていうか、そういう役目じゃないですか。 高橋是清や井上準之助のように、お国の為に役に立ちたいって思いです。 お二人とも自分の命を懸けて、信念をもって仕事に取り組まれたと聞いています。

田中： なんか、修行僧の様でもあり、武士の様でありって感じですね（笑） 。  
では、聞くとムカッってくる言葉ってありますか。

加藤： 別にはないですね。 でも、まあ経営者として、真剣にやってることを、そうじゃないって言われた時は、そう思うかも。

田中： 落ち込むことってありますか。

加藤： ありますね。 ないことはないですね。

..... つづく ^^

田中： どうやってリセットしていますか。

加藤： 寝るってことですね。

田中： でも、4時半に起きちゃうんですね（笑）。

加藤： うーん、まあ、寝るのも早いですよ。 夜9時くらいとかで、10時には寝てますね。

田中： すごい。 中学生より早いじゃないですかー。

加藤： 朝4時半に起きて、布団畳んで、自宅の神棚を整えて、そのまま会社に行って神棚でパンパンやって帰ってきます。 後はストレッチと筋トレを5分くらいやって。 それで朝ご飯の時間が来ます。

田中： それも習慣になってる？

加藤： ですね。

田中： 今一番欲しいものは何ですか。

加藤： まあ、資金ですね。 会社の財務をよくしたい。 あとはね、大きくなる会社っていうのは、人が大事だと思うので、いい出会いがほしいですね。 仕事もプライベートも。 出会いのような気がしますね。

田中： 何をしてる時が一番楽しいですか。

加藤： 気分的にはお酒飲んでる時なんでしょうけど。

田中： 笑

加藤： だからと言ってお酒を飲んでいる時に、キャハハハって笑っているわけではありませんけどね（笑）。

田中： 楽しいっていうのも、一般的に笑ってるから、楽しいってことだけじゃないと思うんですよ。

加藤： うんうん。 何も考えない時が一番楽しい。 何も考えずに没頭してる時。

田中： いわゆるフロー状態。

加藤： そうですね。

田中： 今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語るとしたら？

加藤： 2つ……2つですか。

田中： たくさんありますよね（笑）。

加藤： はい、たくさんありすぎて全部と言っていいほどですが（笑）。 強いて言うと、社長になったこと、結婚したことでしょうか。

田中： 今の自分を突き動かしているものは、何だと思いますか。

加藤： それはさっき話をした、生き抜くってことですね。

田中： 今死んでも悔いはありませんか  
……これは、なさそうですね。

加藤： まあ、そうなったら、なった時なんでしょうね。

田中： 身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか。

加藤： なんか本を書くかもしれません。 本を書きたいなって思ったことはあります。

田中： へえ、どんなことを？

加藤： いやいや、文章書くのは嫌いじゃないもので。

田中： メモもいっぱい取っていらっしゃるしね。

加藤： 現実的なものでいけば、仕事の引き継ぎをしっかりとしますね。 妻に会社を、「こうやっというよ」とか。

田中： 世界に向けて演説をしたら、何を一番伝えたいですか 世界にじゃなくても、遺



す言葉があるとしたら。

加藤： 人間の欲望があるから世の中がおかしくなってきたので、「欲望をおさえましょう」ってことですかね。

田中： 生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか。

加藤： どっちでもいいですね。 それは考えたことないなあ。

田中： 自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、教えてください。

加藤： うっかりで、おちょこちょいだとか。 うっかり話は、いっぱいあります！

田中： 今日のこの時間で、何か気付いたことがあったら教えてください。

加藤： 自分がしゃべってみて、「実はこんなこと考えてたんだな」ってことを再認識しました（笑）。

田中： あははは。 ありがとうございます。

加藤： そう、誰にも喋らないようなことも、ちょっと頑張って喋ったつもりです。

田中： いえ！ 本当にありがとうございます！ なんか、とてもおもしろかった（笑）。

加藤： そうですか（笑） はい。

田中： 私はその人の考え方、生き方とか、根底にあるものって、すべてに反映されるもののような気がしているので、そういったものを感じる時間というのは、すごく興味があります（笑）。今日は本当にありがとうございました。

加藤： 今日はどうもありがとうございました。話を聴いて下さって。

田中： いえ、こちらこそー。

加藤： あまりコッチ系の話はする人はいないような気がするんですけど（笑）。できる相手がないというか。そういった意味でもありがとうございました。

田中： またよければ声をかけてください（笑）。

最後までお読みいただきましてありがとうございました。

今回、あなたの心の内側では、どのような気づきがありましたか。

少しでもみなさまのお役に立てましたら幸いです。

さて、私にはこのインタビュー記事の電子書籍出版のほかに、

『コーチング』という専門職の顔も持っています。

実は、今お読みになられたインタビューそのものも、このコーチングの考え方に則って行っています。

コーチングとは、人材開発のための手法のひとつで、

おもに対話によって相手の自己実現や目標達成を図る体系的な技術のことです。

相手の話を聴き、感じたことを伝えて承認し、相手に適切な質問をすることで、

クライアントの自発的な行動を促していくことができます。

日本にはいくつかのコーチングスクールがあります。私はCTIというコーチングスクール

でCPCC（Certified Professional Co-Active Coach）という国際資格を取得しています。現在、日本では約550人のコーチがCPCCの資格を取得し、世界中では6,900人のコーチがこの資格を持って活躍しています。（2014年6月現在）

また、『人間の脳の取り扱い説明書』とも称される実践心理学 『NLP（神経言語プログラム）』 も学び、

米国NLP協会認定トレーナーアソシエイトの国際資格も取得しています。

このNLPとコーチングはとても親和性が高く、相互に相乗効果を発揮して、クライアント様の変化変容、

目標実現に大きく寄与していると評価を頂戴しています。

その他、ソースワークショップトレーナーの資格も取得しており、クライアント様に

「本当に生き甲斐のある人生とは何か」を見定めていただくためのサポートもさせていただいております。

しばらく新規クライアント様の募集は諸事情によりおやすみをさせていただいておりましたが、このたび、また新規クライアント様の募集を再開させていただくことになりました。

もし、少しでもご興味やご関心がおありでしたら、無料体験コーチングを受講なさってみませんか。

今なら1回60分のコーチングセッションを無料でお受けしております。

これまでも、たくさんの経営者様、事業家様、サラリーマンの方、もちろん主婦の方々までコーチングをさせていただきました。柔軟なアプローチと揺るぎない信頼関係。これが私のコーチングのスタイルです。

あなたの目標達成はもちろん、日常生活でのメンタル調整に、思考や判断の整理に、コーチングやNLPは素晴らしい効果を発揮します。私にあなたのサポートをさせていただけるのであれば、これに優る喜びはありません。あなたからのお問い合わせを心からお待ちしています。

無料コーチングセッション、その他のお問い合わせはお気軽にこちらから。

< [ace-support@samba.ocn.ne.jp](mailto:ace-support@samba.ocn.ne.jp) >

最後までお読みいただきましてまことにありがとうございました。

ハタラクヒトペディア電子出版

記者兼編集長 田中永子

ハタラクヒト\*ペディア 5 < 加藤 大志朗 氏 >

<http://p.booklog.jp/book/76627>

著者：田中永子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/24riko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/76627>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/76627>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ